
NARUTO ~ 転生？え、私が？ ~

K

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

NARUTO ～転生？え、私が？～

【Nコード】

N4514BA

【作者名】

K

【あらすじ】

第4部（本編第3話）は14日0時にアップ致します！

次話は14、15日中にアップします。

R18小説投稿サイト：ノクターンノベルにてまったり掲載していた作品を、R18描写がでてくる転開が見受けられないため、こちらのにじファンに移行してきました。

少々改訂を加えてまったり投稿していきます、どうぞよろしく願います。

随時、ご意見ご感想、質問、アドバイス等承っております！お気軽
にどうぞ！

お気に入り登録也大歓迎です

ブログという名の転生デフォ（前書き）

K「えーと、この度はご迷惑をお掛けしております

ノクターンノベルにて掲載していました作品をこちらに移行してまいりました」

？「へー…って私また初めからのっ!？」

K「どんまい、頑張れ〜なるようになるさっ」

？「はぁ・・・この作者の元で描かれるのは失敗だったかな・・・

とまあ、とりあえず本編どうぞ」

プロローグという名の転生デフォ

『どうもすみませんでした』

「はい・・・？」

目の前に、おじさん？おじいちゃん？変な白い衣装をきて、土下座してる男性がいる…

『えっと…間違えて殺しました』

「はい・・・？」

殺した？んー？

私死んでるんだっけ？

あ、確か、不良さん達にからまれて、逃げようとした時に転んで…
・頭うつたんだっけ？

『思い出しました?』

「ん?不良さんに絡まれて転んで頭うつた?」

『あれ、転んでも、死なないはずだったんですけど…新人の神教育中の手違いで……』

あゝよく二次である転生テンプレですね。

「それで私はどうなるの?」

『あの、こちらのミスで死なせてしまったのですが、元の世界に戻す上にバレちゃうので、別世界でお願いしたいなあと』

「別世界って、漫画とかアニメとかの?」

『そうですね、世界によっては何か能力つきますよ』

「一つ?」

『いや、特に制限はないです』

「原作ブレイクとかしていいの？」

『平行世界なのでどうぞ、ご自由に』

サスケ君とナルト君のすれ違いをどうにかしたいからNARUTO
でいいかな

テニプリで生のリョーマ様見るのもいいかなあ

女の子が多い原作でゆりゆりするのも……ん……

能力付けてくれるなら、あえて危険なNARUTOでいいかな

「NARUTOの世界で」

『能力は？』

「えつと〜とりあえずチャクラ多めで、身体能力も高めだと助かる
かも」

『あゝその辺りはデフォなので気にしないでください』

あ、デフォなんだサービスいいねっ

「んー、考えるのめんどくさいから適当にお願い」

『え？あ、はい。何度か転生させたことありますけど、適当に言われたのは始めてですね』

わかりました…ちなみに生まれるところからなので頑張ってくださいね』

何度かって、そんな多発してるとかダメでしょ……………

「はい」

辺りが急に暗くなった

物凄く睡魔に襲われてる気がする……うん、寝よう

ブローグという名の転生デフォ（後書き）

K「ご覧いただきありがとうございます」

？「名前…私の…名前…」

K「前世の名前は出てこないから気にするな」

？「扱いひどいよーっ！っ！っ！」

K「では、一部改訂しつつのアップ頑張っていきます」

狐さんとの出会い（前書き）

K「とりあえず、ほんの少しだけの改訂が続きそうな感じですねあ」

？「そっか」

K「なによりも、連載2本抱えるとか、死ねる」

？「それは、自業自得…」

K「大丈夫、予定ではNARUTOは100話以内に終わるから」

？「それ、事前に言っちゃっていいの？」

K「あくまで、予定ですからっ」

？「あーそうですね…」

本編どうぞっ」

狐さんとの出会い

目が覚めた

「あぶーぶー（見知らぬ天井）」

そういえば、生まれるところからって言ってたよね
見知らぬ天井って言ってみたかったんだけど、言葉が喋れてないじ
やんっ

暫くぼーっとしていると

ふと、私の顔を覗き込んだ人が居た。

「ぶ？（え？）」

この顔知ってる

波風ミナト・・・？クシナ・・・？

4代目火影夫婦である

何故ここに？

私は急にまた眠くなって、眠りについた

数日して、私の出生に気づくことができた
ミナトとクシナの子供として生まれたんだ…
ナルトの兄弟かな？

何度が寝起きしてる間に変な夢を見るようになった

大きな目が見下しているのだ
姿は影になっていて見えない

そして、その夢を見るようになってからミナトとクシナの姿を見る
ことはなかった

代わりに、三代目の顔を見るようになった

そして、三代目は独り言を言った

「波風ナルか…ミナトの意向でアカデミーには男として入れなければならんし、中の九尾のこともあるのう…どうしたものか」

えーっと、ちょっと待って、波風ナルって誰！？
いや、明らかに私を見て言ってるから、私だよな？
私の中に九尾？

っていうことは、ナルトの変わりに私がいるの？
そ、それに男として入学ってどうゆうことっ！？

色々自分で出来るようになったのが三歳の頃
三代目の家でお世話になっていた

そして真剣な表情で三代目から話があると言われ呼び出された

「ナル」

「どうしたのですか？おじい様」

言っのを少しためらっているのか、室内が静かになった

「お主はこれから、男として独りで生活していかなければならん」

三歳児にとっては衝撃の一言、はっきりと言ったよこの人

「私は女ですよね？」

「そうなのじゃが・・・そうじゃの、アカデミーを卒業し中忍になったら女として生きていくがよい」

中忍になったらって、結構先なんですけど・・・どうこう言っても変わらないだろうし、いいや

「わかりました」

「独り暮らしは大変じゃからな、こまめに見に行くつもりじゃ」

「気にしないでいいですよ。おじい様、お忙しいんですから」

「ほっほ、まあよく出来た子じゃ・・・前にも話したが血の繋がりは無いが、実の孫のように思っておる。いつでも顔を見せにきなさい」

「はい、おじい様」

やっと自由になれ・・・常に何人か暗部の監視が着いてそうだから完全な自由にはなれないよね・・・

こうして独りの生活が始まったのだけど、日向ヒナタ誘拐事件まであと少しなんじゃ？

あそこの関係もどうにかしたいんだけど…忍術とか練習なんてさせてもらってないし

後からどうにか二人の間をもって修正するしかないかな？

原作どおりの木造の一室に暮らし始めた

お金はたぶん四代目の遺産を三代目が残しておいてくれたのだろうこれから人生苦労しない程度のお金が・・・

日常生活品の買出しをすませ、とりあえず生活できるようになったやっぱり町を歩くだけで、コソコソと話している声が聞こえてきたのは…言うまでもない

どうしよう？修行するにしても何からやればいいのか…とりあえず狐さんに会ってみようか♪

深層心理だっけ？深層心理・・・深層心理・・・・・・・・・・

お？これたー！

アニメどおりの光景が広がっていた

『貴様は誰だ？』

およ？

ちょっとはしゃいでいると、明らかに威圧するような声が聞こえてくる

振り向いた先に見えた目は小さいときに夢に出てきた、あの目だっ

た…

九尾の狐さんの夢だったんだね

「私はナルだよ、ただどうずまきナルトっていつ名前で生活してる
っ」

そっぴいつつ檻の棒と棒の間に立った

『そうか、お前がワシの器か』

「そうみたいだねっ狐さん」

私は、檻の中にそのまま入った

『檻の中に入ってくると食らうぞ?』

殺気を放ちながら威嚇をしてくる

「大丈夫、九尾の狐さん、意外と優しいから」

『ならば食ってやろう』

「あーやめた方がいいよ」

『なんじゃ?本当に食われると思って怖気づいたか?』

んー確かにね、怖いよ
だけど……

「いや、確かに怖いと思うよ、狐さんが威嚇してるんだから
私はね話し合いにきたの」

『話し合い？ワシに？ふざけるでない
この九尾がガキと話し合いだと？笑わせる…』

九尾ってこんなんだっけ？まあいいや

「うちはマダラ」

ピクツと動いたのは誰にでもわかるだろう
あからさまにその名を聞いた瞬間反応した

「うちはマダラ…あと十年とちょっとぐらいかな？そのぐらいしたら
戦えるチャンスがあるんだけど」

『ほう、それでどうしろと？』

「チャクラの提供と私の体への治癒、それから四代目火影：波風ミ
ナトとクシナのチャクラの一部がここにいるはずだから会わせてほ
しい」

最初二つの意見は飲もう

だが三つ目は…確かにワシと貴様以外のチャクラを感じるが場所まではわからぬ』

やっぱりか……

$$\begin{array}{c} \neg \\ h \\ | \\ \vdots \end{array}$$

おとうさんーん！おかあさんーん！

出てこない、九尾の封印、解除しちゃうよー……っ！……っ！」

「きゅ、急に大声をあげよつて、なんじゃ？」

シーン
・
・
・
・
・

「おいおい、せっかく封印したのに解除されたら困るよ」

突然波風ミナトが現れたのであった

「お父さん？」

「え？ナルかい？でもなんでお父さんって？」

「秘密」お母さんは？」

『ああ、僕より深くに居てね…
なかなか出てこれないんだ』

「そう…とりあえず、お父さん」

『なんだい？』

「男として過ぐせってどうゆうことかな……………？（怒）」

『え、あ、いや、それは、その……………（やばい、ドス黒いオーラが出てるような…）』

「説明して」

『えっと、娘に変なやつがまとわり着かないように？』

そんな理由なのね……………

「じゃあお父さん、私に忍術・体術・幻術教えて」

『えっと？』

「暁、S級犯罪者ばかりを集めた、うちはマダラ率いる組織」

『ん？』

「これから、十年ぐらい先の話だけど、その暁と戦争になる」

『予知夢でも見えたのかな？』

「まあそんなところだよ。だから、教えて…この場所での修行っておもての時間過ぎないんでしょ？」

『基本的にはそのはずだよ。わかった、稽古をつけよう』

それから、現実と深層心理の中を行ったり来たり
チャクラコントロール、体術、忍術、幻術、色々教わった

そこでわかったことがある

1、五行属性全てが扱える

2、日向の体術を学んだらいいんじゃないか

3、幻術かけるの苦手

4、神様がくれた能力1：まさかの写輪眼？（神様曰く「写輪眼と同等の能力を持った目っていうだけで、写輪眼のような模様は出ずに、発動中は少しだけ目の青色が明るくなるだけ」）

5、神様がくれた能力2：練習すれば印いらずで術が発動しちゃう
(強力な術は印が必要)

6、前世で偏差値高い中学に行っていたので、どうやら記憶力や計算能力もいらしい

7、九尾を手のひらぬいぐるみサイズで口寄せできる(ナルの半径10M以内が行動範囲。それより離れると体内に戻る)

「日向体術なんて、一般の人に教えてくれるはずないよなあ…あきらめよう」

そして更に月日がすぎて行く……

狐さんとの出会い（後書き）

K「ご覧いただきありがとうございます」

ナル「これさ、去年の8月ごろ書いてた内容だよね…」

K「そうだよ？」

ナル「ノクターンから移行してきて、見てくれる人絶対離れていく気がする」

K「あははは・・・悲しいことを言うでない！

まあまったりといきますよーー」

ナル「でも、ほとんど改訂されてないね」

K「まあね、『・・・』を『...』に変えてみたりとかー

ほんと些細な部分だよ、あとはちよつと言葉を付け足してみた
りね」

ナル「へえー、たくさんの人が見てくれるといいね」

K「うん、そして、そのままたくさんの方がお気に入り登録して、
たくさんの方が評価をしてくれて、そのままの勢いで、ランキング
に入ってくれると嬉しかったりする」

ナル「強欲だね」

K「ハガレンでいうとこのグリードですよ」

欲の塊「俺ww」

ナル「では、この辺で、さうばなのですーっ」

主人公の簡単なご紹介

名前：波風ナル （三歳から、うずまきナルトとして行動）

性別：♀ （三歳から、♂として行動）

原作と見た目が違うとするなら、明らかに背が小さいことと、顔が小顔になっていて目も少し元とは違い、女に見えてしまう・・・髪も少し長めでおでこを出して、頭の上でゴムで縛ってる。

（けいおんのりっちゃんかたまにやってる髪型）

服装が女性用なら、確実に女と思われるだろう。結構華奢だし・・・。

服装は基本的に一緒、原作のナルトの格好のまま、上着は前をあけて右側だけ肩から外して着くずしている。

無駄に、一応、サラシを巻き、体のラインを出さない為に、少しダボつとしたTシャツを着用。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4514ba/>

NARUTO ～転生？え、私が？～

2012年1月13日19時16分発行